

研究主題「自ら「問い」をもち、深く考え、表現し、五ヶ瀬を創る児童生徒の育成」
～ 授業力の向上・体験活動の充実・開かれた学校づくりに資する教頭の関わりを通して ～

西臼杵支会 五ヶ瀬町立五ヶ瀬中学校 吉田 和弘

1 主題設定の理由

五ヶ瀬町は人口3,200人弱、九州山地の中央に位置している。阿蘇カルデラの外輪山を仰ぎ、自然豊かな町である。人口減の波は、五ヶ瀬町にも押し寄せており、1校あたりの児童生徒数も減少している。小学校では複式学級を有する学校が増加しており、教育課程を工夫しながら授業を行っている。

そこで、山間地における少子化、高齢化、過疎化等の一般的な負の条件を逆転の発想で好条件と見なし、「地域があって、子どもがいて、学校がある」という基本的スタンスで、幼児からお年寄りまでが生涯にわたって互いに関わり合いながら学び続けることのできる地域創造・循環型の教育システム「五ヶ瀬教育グランドビジョン(GV)」を進めている。

GVの構築に向けて、学校教育を中心とした取組については、五ヶ瀬で生まれ、育ち、生き、五ヶ瀬を創造する人づくりの実現のため、町内の小中学校が一つの学校であるという発想のもと、少人数だと効果が上がりにくいデメリットを、町内小学校が各学年部(低・中・高学年部)で集まることでメリットに変えるための集合学習(G授業)を充実させている。各校で少人数指導を行いながら、教科や学習内容によっては多人数での授業を可能とする柔軟性をもったシステムである。また、小中学校9年間を見通した系統的・発展的な学習を目指している。その柱として、児童生徒に最適な教育環境を提供し、一人一人の資質・能力を最大限に伸ばす「授業力の向上」と五ヶ瀬のよさを幅広く認識する教育活動を全教科・領域等において意図的・計画的に展開する「豊かな体験活動の充実」を掲げている。さらに、G授業や豊かな体験活動を進めていくうえで、地域の教育力の活用は必要不可欠であると考え。学校と家庭・地域との協働のもと「開かれた学校づくりの充実」を目指している。

「授業力向上」「豊かな体験活動の充実」「開かれた学校づくりの充実」を通して、自ら「問い」をもち、深く考え、表現し、五ヶ瀬を創る児童生徒を育成していきたいと考え本主題を設定した。

2 研究のねらい

GVのもと、「授業力向上」「豊かな体験活動の充実」「開かれた学校づくりの充実」を図る上で、教職員が「問い」をもたせる指導を工夫し、児童生徒一人一人に地域に感謝し、地域づくりに自ら貢献する意欲を高めるための教頭の役割を究明し、自ら「問い」をもち、考えを深め、表現する児童生徒を育成する。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 各組織の連携における教頭の役割
- ② 「授業力の向上」、「体験活動の充実」における教頭の役割

③ 「開かれた学校づくりの充実」における教頭の役割

(2) 研究の実際

① 各組織の連携における教頭の役割

ア GV運営会議

GV運営に係る最終決定を行う。町全体で町内の各機関の動きを把握し、学力向上、豊かな体験活動等の進捗状況を確認したり、意見交換を行ったりする。

イ 町教頭会

県や郡、町の教頭会の運営に関する役割分担や確認だけでなく、教育委員会の取組に関する共通理解を図り、町内の全小中学校が協力し合いながら共通実践できるようにする。

ウ 町教務主任会

各学校がそれぞれの強みを生かし、少人数指導の下で効果的な教育活動が展開できるように、また、町内の各校が一つの学校として機能していくよう、教育課程を高めるための手立てを話し合う。また、新年度の教育課程についての協議を行う。さらに、夏季及び冬季休業中に行われるGV全体研修会・10月に行われる町オープンスクールの企画・運営を行う。

【教頭の役割】

- GV運営会議(町内小中学校の各種事業の決定機関)に向けての総合的な連絡調整及び、会の運営を行うとともに各組織が十分に機能するため、必要に応じて指導・助言を行う。
- 教頭会で校長会や教務主任会等の内容を共有しながらビジョンの具現化に向けて各学校の取組の確認を行う。また、今日の本町や教職員の教育的課題解決に資する研修会を企画・提案する。
- 町教務主任会に教頭代表が参加し、ビジョンを具現化するための取組内容の在り方について示唆する。

② 「授業力向上」及び「豊かな体験活動の充実」における教頭の役割

ア 町の研究推進委員会

校長会代表と教頭会代表及び小・中のリーダーと教育委員会が一堂に会し、町としての取組の方向性を協議し、確認を行う。また小・中の研究内容の情報共有や全体研修会の内容調整等を行う。

イ 小学校各学年部会(低・中・高学年部会)及び、中学校校内主題研究

小学校各学年部会では町内の小学校におけるG授業に関する協議(作業部会)や授業力向上についての協議を行う。

【教頭の役割】

- 町の研究推進委員会では、町の取組としての提案事項に対して、教頭会で

の提案等を反映させたり、助言を行ったりする。

- 小学校では各学年部会のリーダーを務めることで、各G授業の担当業務を推進すると同時に、メンバーを適材適所で生かし、人材育成を行う。中学校では校内研究推進委員会において、主題研究の方向性や効果的な取組について指導・助言を行う。小・中ともに、ここで児童生徒自ら「問い」をもたせる手立てや、「問い」を解決し「まとめ」を導く手立てはどうあるべきかについての協議を深めさせる。

ウ 五ヶ瀬町における豊かな体験活動

本町では、「児童生徒が五ヶ瀬のひと・もの・ことに触れる機会について、9年間を通して意図的・計画的に設定し、児童生徒がふるさとの魅力に興味・関心をもち、地域のよさや課題を感じて発信するための技能及び自ら地域に貢献しようとする態度を養う」ことをねらいとして「豊かな体験活動」を位置付け、五ヶ瀬を知り・五ヶ瀬で学び・五ヶ瀬に貢献するといった3つの視点が保証された学びを豊かな体験活動として捉えている。豊かな体験活動を通して「課題設定力」「課題解決力」「プレゼン・表現力」「コミュニケーション力」の4つの力を身に付けさせていくものとしている。

【教頭の役割】

- 児童生徒に地域貢献につながる知識や技能を育ませるために、小中学校9年間を見通した系統的・発展的な学習になるように、指導・助言を行う。その際、一つ一つの活動が体験に終始することなく、ねらいを達成するために、児童生徒自らが「問い」を設定し、気づきを得る（「まとめ」を導く）ための手立てについて十分協議をさせる。

③ 「開かれた学校づくりの充実」における教頭の役割

ア 学校支援室との連携

本町では、事務室を学校支援室と位置付け、様々な場面（教科等、G授業、学校行事等）で教職員と連携を密にしながら教育活動への支援を行ってもらっている。

(ア) 五ヶ瀬教育ビジョン推進の支援

- 効率的な予算執行
- スクールバスの予約管理
豊かな体験活動に伴う予算の執行やG授業時のバスの調整等を行ってもらう。

(イ) 地域学校協働本部に係る窓口

- 地域コーディネーター連絡協議会運営
授業に地域人材が必要な場合、地域コーディネーターと連携し、授業に最適な人材を発掘してもらう。

【教頭の役割】

- 職員と支援室の学校をまたぐ予算執行について教職員との仲介を行うことで、迅速で正確な執行を促す。
- 地域コーディネーターとの協議の場を設定し、各学校の年間計画やねらいを説明し、活動の充実が図られるようにする。

イ 学校運営協議会との連携

本町の全小中学校は、学校運営協議会を設置したコミュニティー・スクールである。学校運営協議会は年間5回の実施を計画している。こ

れまでは、豊かな体験活動の計画や運営等について、学校主体で進めることが多かった。そこで本年度中学校では、地域の方々へも計画の段階から関わっていただけるような運営の工夫・改善が必要であると考え、学校運営協議会委員への毎月1回、月行事の立案を行う企画委員会への参加を呼びかけたところ、快くお引き受けいただき、貴重な御意見をいただいている。

(ア) 学校運営協議会との協議をもとに考えた新たな教育活動例

- 「西臼杵地区中学校秋季体育大会選手推戴式」における、男子バレー部外部指導者による激励の言葉
- 「宮崎県中学校秋季体育大会選手推戴式」における、本校卒業生による激励の言葉
- 観光協会のホームページを利用した、文化発表会に向けた活動の様子動画配信
・ 生徒の自作動画を8本制作し、Instagramで配信を行った。

【教頭の役割】

- 学校運営協議会に対して、学校の教育活動についての情報を可能な限り発信し、協働して学校教育に携わっていただく場を設定する。
- 学校運営協議会の御意見を学校教育に反映させ、地域の声を学校に届け、また、学校の声を地域に届ける橋渡し役を担う。
- 地域とともにつくる学校教育を体現し、職員の「地域あつての学校である」という意識を高める。

4 研究の成果

- (1) 全ての会議に校長だけではなく、教頭が参加することで、多面的に指導・助言等を行うことができ、GV全体が質の高い活動となっている。
- (2) 月に1回開催される教頭会を中心に、5校の教頭が常に連絡を取り合い、情報を共有することで、GV全体の推進が図られている。
- (3) 小学校各学年部会では、G授業の企画において、児童に「問い」をもたせ、「まとめ」を導く手立てを具体的に話し合わせた。その結果、地域の指導者との打ち合わせも綿密に行うことができ、効果的な連携を図ることができた。また、体験で終わる授業ではなく、気付きのある授業の実施につながった。
- (4) 自校の教職員だけではなく、町内の教職員とGVにおける交流を積極的に図ることで、教職員の資質・能力の向上につながっている。
- (5) 学校運営協議会委員の企画委員会参加に取り組んだことで、地域人材の効果的な活用機会についての議論を円滑に行ったり、教員が気付かない視点から意見を伺ったりすることができ、即実践に結び付けることができた。生徒が受け身で学ぶのみの学習ではなく、主体的に地域に発信・貢献する学習が展開され、五ヶ瀬を創る児童生徒の育成につながった。

5 今後の課題

児童生徒の資質・能力を高めるために、様々な教育活動が真に豊かなものになっているのか、町の教職員がより鮮明なゴールイメージを描くために、さらに小・中お互いの授業や体験活動を参観し合い、協議・吟味し、高め合う必要がある。